

令和7年9月26日（金）13時30分～

交通政策審議会 海事分科会 第187回船員部会

【岩下労働環境技術活用推進官】 それでは、定刻となりましたので、ただいまから交通政策審議会海事分科会第187回船員部会を開催させていただきます。事務局を務めさせていただきます海事局船員政策課の岩下でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日はウェブ会議システムを併用しての開催としております。リモートでご参加の委員におかれましては、カメラ、マイクの通信はオフ（マークにスラッシュが入った状態）のまま、ご発言される際のみカメラ、マイクをオンに、発言が終わりましたらカメラ、マイクをオフにさせていただきますようお願いいたします。

また、ご発言いただく際は、画面上部のアイコンから「手を挙げる」を選択いただくか、カメラ、マイクをオンにして「部会長」と発言いただき、部会長より指名がありましたらご自身の氏名をおっしゃった後に発言をお願いいたします。

なお、会場にご出席されている委員におかれましては、発言を希望される場合は挙手をしていただき、部会長より指名がありましたら、お手元のトークボタンを押して、ご自身の氏名をおっしゃった後に発言していただき、発言が終わりましたら再度ボタンを押して、マイクをオフとしていただきますようお願いいたします。

本日は、委員及び臨時委員総員19名中17名のご出席となりますので、交通政策審議会令第8条第1項及び船員部会運営規則第10条の規定による定足数を満たしておりますことをご報告申し上げます。

本日の資料につきましては、会場にご出席されている委員の皆様には、席上に配付をさせていただきます。また、リモートでご参加の委員におかれましては、事前にお配りした資料をご覧ください。資料は45ページ物で各ページの右下に通し番号を振っておりますので、ご確認をお願いいたします。

また、委員限りの資料としまして、一枚物で「船員関係予算の推移について」とタイトルのついた資料を配付しております。併せてご確認をお願いいたします。

それでは、議事に入りたいと思います。加藤部会長、司会・進行をお願いいたします。

【加藤部会長】 よろしくお願い申し上げます。

それでは、議事を進めてまいります。報告事項でございます、議題１の令和８年度海事関係予算概算要求につきまして、事務局よりご説明をお願いいたします。

【遠藤総務課企画官】 海事局総務課の企画官をしております遠藤と申します。私のほうから、海事局関係の令和８年度概算要求につきまして、全体を説明させていただければと思います。

資料につきましては、お手元の右下のページ番号で言いますと６ページをお開きください。こちらは令和８年度海事局におきます予算概算要求の総括表になります。この表の右側のほうでございます。令和８年度要求額（Ａ）という列がございますけれども、その一番下でございます。要求額といたしましては９６．４億円でございます、対前年比で１．２０倍となっております。要求の内容につきましては、大きく３つの柱から構成させていただいておりますので、次のページ以降でその概要を説明させていただければと思います。

７ページをご覧ください。１つ目の柱といたしましては、海事クラスターの競争力強化・生産性向上になります。要求額といたしましては、６．９億円プラス事項要求となっております、対前年比で２．５倍でございます。事項要求の内容につきましては、米印で書かせていただいておりますけれども、日米協力を踏まえた造船についての強靱なサプライチェーンの構築に必要な経費につきましては事項要求とさせていただいております、予算編成過程で検討することとしております。

それ以外の内容といたしましては大きく２つございます。丸の２つ目でございますけれども、１つは自動運航船になります。ヒューマンエラーに起因する海難事故の防止とか、船員の労働環境改善にも期待される自動運航船でございますが、２０３０年頃までに本格的な商用運航の実現を目指しているところでございます。人からシステムにタスクが移行していくということに伴いまして、新たな検査・認証の方法とか、衝突事故があった場合の人とシステムの責任や補償関係の整理など、必要な制度整備を進めていくという必要がございますので、これらに必要な調査事業を要求として盛り込んでいるものになります。

丸の３つ目でございます。こちらは内航海運になりますが、荷主よりも立場の弱い海運事業者の取引環境を改善するためのガイドラインの策定、またはそれらの周知徹底を実施していく。また、船員の負担軽減や生産性向上に資する設備等の技術開発やその導入支援についても要求に盛り込んでいるところでございます。

次に、８ページをご覧ください。２つ目の柱につきましては、海事分野におけるＤＸの推進になります。要求額といたしましては１．３億円になります。２０２３年７月にＩＭＯ

におきまして、2050年頃までに国際海運からの温室効果ガスの排出ゼロとの新たな国際目標に合意したところでございますが、今後、条約の改正案につきましては、この10月にも採択がされるという見込みになっております。今後、新たな条約改正に基づきまして、ルールづくりが本格化してまいりますけれども、我が国日本といたしまして強力に議論をリードしていくことができるよう、必要な調査事業を盛り込んでいるというものになります。

その他、下の点線で囲まれているところ、こちらは経産省等他省庁のものになりますけれども、ゼロエミッション船につきましての開発・実証、または生産設備基盤の構築に必要なグリーンイノベーション基金とか、GX移行債を活用した支援等につきましても、これらを活用しているという状況でございます。

次に、9ページをご覧ください。3つ目の柱といたしましては、海技人材の確保・育成になります。要求額は77.8億円、対前年比で1.2倍になります。こちらの内容につきましては後ほど担当から説明があるかと思うので、簡単に触れる程度になりますけれども、独立行政法人海技教育機構の運営に要する経費のほか、本年4月の船員法等の一部改正を踏まえまして、海技人材の養成ルート強化や人材確保の間口拡充の対策に必要な経費を盛り込んでいるところでございます。

最後に10ページになりますけれども、こちらは海事局固有の予算ではなくて、他省庁や他局において計上されている開発関連の予算要求事項になります。離島航路補助とか海技研の運営費のほか、海事行政DXの推進に向けたシステム改修費等を盛り込んでいるものでございます。

雑駁ではございますが、私から、全体につきましての説明は以上になります。

【鈴木海技課課長補佐】 海事局海技課課長補佐の鈴木です。よろしくお願いいたします。引き続きまして、海技教育機構に係る予算要求についてご説明いたします。

資料の右下、通し番号24ページをご覧ください。令和8年度の予算要求におきましては、海技教育機構の予算といたしまして、約75.2億円を要求しております。今年度、令和7年の予算が64.5億円となっておりますので、前年比で約1.17倍の要求となっております。令和8年度の要求内容について説明する前に、令和7年度、今年度の予算の状況、これは令和6年度の補正予算も含むんですけれども、進捗についてまずはご説明、ご報告させていただきます。

今年度に措置されている主な予算といたしましては、「銀河丸」の大規模修繕金、「銀河

丸」のオンボードシミュレーターのリプレース、それから、清水海上技術短大のエンジンシミュレーターの換装、学校施設の大規模修繕などが含まれております。

現時点での進捗についてご報告させていただきますと、「銀河丸」の大規模修繕につきましては、ちょうど9月上旬からドックに入っております、今、まさに大規模修繕工事を実施しているところでございます。この大規模修繕工事におきましては、老朽化した設備の換装を中心といたしまして、そのほか、現在は女性用シャワールームが1つしかないんですけれども、そこに女性用のお風呂、湯船を新設するなど、そういったところを予定どおり、計画どおり淡々と進めているところでございます。また、大規模修繕の期間に合わせまして、老朽化した「銀河丸」のオンボードシミュレーターのリプレース、及び交通艇のリプレース等も実施しております。

続きまして、清水海上技術短大のエンジンシミュレーターの換装につきましては、現在、シミュレーターの納入を待っている状況でございまして、今年の11月頃に納入されまして、大型ディスプレイを活用した新型のエンジンシミュレーターを整備する予定となっております。学校施設の大規模修繕につきましては、老朽化した設備の更新、雨漏り等の修繕などにつきまして淡々と進めているところでございます。当然ではありますが、当初予算の計画に含まれていないものであっても、外壁の落下であったり、空調設備の故障など、学生の安全面、それから生活面に必要なものについては優先的に修繕を実施しております。ここまでが令和7年度の進捗になります。

続きまして、令和8年度予算要求の内容について、資料に沿ってご説明いたします。資料の中段、事業内容の右側に記載しております練習船の機能向上といたしまして、練習船「大成丸」のオンボードシミュレーターのリプレースを要求しております。先ほど説明しましたとおり、今年度におきましては、「銀河丸」のオンボードシミュレーターをリプレースしているところですが、「大成丸」のオンボードシミュレーターにつきましても、設置から既に16年を経過しているところと、パソコンの故障等が発生しているということがありますので、こちらについて新型シミュレーターの更新の要求を行っております。

続いて、波方海上技術短大の校内練習船「くるしま」の代船建造を要求しております。校内練習船につきましては、養成定員が多い、また校内練習船の利用頻度が最も高い清水海上技術短大につきましては、校内練習船「かざはや」を令和3年度補正予算で措置しております、令和4年度に代船建造したところなのですが、次に養成定員が多い波方の「くるしま」についても、建造から既に30年を経過しているということがありますので、老

朽化が進んでいますので、要求しております。「くるしま」につきましては瀬戸内海、また来島海峡など、潮流が非常に強い海域を航行することになっておりますので、強潮流対応のエンジンを製造する関係上、2年にわたって要求する予定となっております。そのほかにも既に建造から30年を経過した校内練習船が複数ありますけれども、それらについても利用頻度、それから老朽状況に応じて計画的にリプレイス等ができるように努めていきたいと考えております。

続きまして、学校施設の機能向上についてですけれども、学校施設の大規模修繕といたしまして、空調設備の更新、女子トイレの改修、外壁塗装など、必要な修繕について予算要求をしているところです。また、波方校のエンジンシミュレーターのリプレイスについても要求しております。これも先ほど説明したとおり、今年度は清水海上技術短大のエンジンルームシミュレーターをリプレイスする予定となっているところですが、波方校のエンジンシミュレーターにつきましても設置から既に20年を経過して、老朽化、また非常に旧式化しているということがありますので、今後、大型モニターを使ってチームで訓練ができるような新型のシミュレーターに換装すべく、要求しているものになります。

私のほうからは以上になります。

【尾崎船員政策課課長補佐】 続きまして、船員政策課の尾崎と申します。

25ページ右下のほうから、船員の確保・育成体制の強化という点について説明させていただきます。上部、背景・課題といたしまして2つ書いてございますが、特に内航における船員不足への対応というふうなところ、それと、経済安全保障の観点から、安定的な国際海上輸送の確保が非常に大きな課題だという認識でございます。そのためにも船員の確保をしっかりと進めていくというふうなところは非常に重要な課題だと認識しておりまして、先般、海技人材の確保のあり方に関する検討会におきましても、5つの方向性と対策として取りまとめられているところでございます。

一方、この船員の確保をめぐる厳しい現状という部分でございますけれども、内航の新規就業者数も直近2024年度、854人と増えてきてございますが、有効求人倍率が5倍近いというふうに非常に高くなっておりまして、特に内航分野、人材の不足感というような点では非常に厳しい状況にあると考えております。こういった中で海運の担い手である船員をしっかりと確保・育成するために、総合的な対策が必要不可欠だというふうな観点から、予算としましては2つの柱に分けて、しっかりと確保できるように要求してございます。

下段、事業内容でございます。1つ目の柱につきまして、船員の確保・育成でございます。この中に4つ事業を示しております。その中でも内航に関連したものとしましては、2つ事業を進めていきたいと考えております。

1つ目が一番左の、船員計画雇用促進事業でございます。こちらは海運事業者が日本船舶・船員確保計画に従って行う、新人船員の雇用・育成に補助していく仕組みになっております。また、その右になりますけれども、内航船員就業ルート拡大支援事業でございます。こちらはあり方検討会の中でも議論させていただきましたとおり、陸上からの転職者を呼び込んでいくような観点で、六級海技士短期養成課程というふうなところのルートに関するものでございまして、こちらの費用のうち実習の場を提供していただく海運事業者に対して費用の一部を補助するものとなっております。

また、外航船員の確保・育成という観点では、一番左下の外航基幹職員養成事業になります。こちらは即戦力のキャリア形成を支援するための訓練を、本日まで出席いただいている皆様、それから船主協会とも連携しながら、訓練を実施していくものになっております。そのうち一部情報発信とか、乗船前訓練に係る費用を国が補助するというふうな内容になっております。こちらの3つ、昨年度から引き続き、今年度もしっかりとやっていくというような内容となっております。

その右側、今回、新規要求としまして、船員の安定的な確保に向けた環境整備の調査を要求しております。こちらは主に海上輸送の担い手である船員につきまして、多様な人材の受入れ環境、特に女性というふうなところにつきまして、必要な課題とかそういった整理をさせていただいて、今後、具体的なアクションにつなげていきたいと考えておるものでございます。

さらにその右側、2本目の柱といたしまして、離職者の再就職支援も昨年に引き続き取り組んでいきたいと考えております。大きく2つございますが、技能訓練実習というふうなものが上側にございまして、こちらは何らかの理由で離職された船員の方にカムバック、再就職していただく際に、新しいスキルを身につけていただく。そういったところに必要な訓練費用の一部を補助するものとなっております。また、最後に一番右下、船員離職者職業転換等給付金というものがございまして、こちらでも離職を余儀なくされた船員の方がその後再就職するまでの間、そういった再就職の促進などを支援するというふうな内容になっております。

こういった6つの事業、こういった予算をしっかりと確保しまして、船員の確保・育成を

進めていきたいと考えております。要求額につきまして申し上げますと、ページの右上に前年、当初予算額として、8,600万に対しまして、8年度要求としましては9,200万を要求してございます。前年比1.06倍で増額要求をさせていただいているところでございます。

内訳でございますけれども、事業内容の1つ目の柱、船員の確保・育成に関しましては大体8,000万円ぐらい、計画雇用推進事業が約3,300万円、内航船員就業ルート拡大支援事業が内訳としまして1,000万円、外航基幹職員養成事業が約2,200万円、調査事業としましては約1,500万円というふうな内訳で要求しております。離職者の再就職支援に関しましては、トータルで1,200万円を要求してございます。

続きまして、資料の36ページをご覧くださいいただければと思っております。こちらは海事行政DXの推進でございまして、デジタル庁の一括予算でございまして、船員に関するところで非常に密接に関わる部分ということでご紹介させていただければと思っております。こちらの船員部会でも11月に、船員行政のデジタル化ということでご報告させていただいた内容になりますので、補足させていただければと思っております。「目指す姿」の部分になりますけれども、データベースがなかったものもありますし、あったものもありまして、様々なデータベースをそれぞれの分野でしっかり構築していくというふうなところと、まさに情報連携基盤システムという、データベース間を横につなぐようなシステムをしっかり構築していくというところで、これまでアナログな行政手続とか情報の個別管理というふうな現状を、今後デジタル化することによって、情報の一体管理とか情報提供の充実を目指していくというような形になっております。

現在、令和6年度の基礎調査、要件定義を踏まえまして、令和7年度、特に情報連携基盤システムの設計・開発を継続して実施してございます。令和8年度要求としましては5億円を要求しておりますが、こちらの内容につきましては、先般、報道発表させていただいた新船員手帳の運用に係るような内容であります船員システムの開発であったり、継続して、この情報連携基盤システムの開発であったり、ほかにも海事局関係の様々なシステムをどのようにすれば効率的かつ一体的なものとなるのか、さらに低廉な運用経費として持続可能なものになるのかというふうなところを総合的に検討するべく、調査を実施したいと考えてございます。

ただ、ご承知のとおり、海事行政DXは大きな取組でございまして、8年度で終わるわけではなくて、継続して9年度以降、順次できるものからやっていくというふうな構想

で進めております。

海事行政DXのところは以上でございます。

付け加えまして、42ページから45ページをご参考いただければと思います。こちらにつきましては、厚生労働省の予算概算要求の概要説明資料となります。あくまでも参考で資料をつけさせていただいておりますが、趣旨といたしまして、もちろん国土交通省ではない別の役所の予算ではありますが、労働政策の分野というふうな点では、非常に親和性の高い行政分野を厚生労働省は所掌してございますし、また持っておられる予算も、特に労働関係の予算に関しましては社会保障費とか、そういったところは相当のボリュームがあるところ、陸の労働者に対して支援をされているというような観点からも、規模が非常に大きいというふうな特徴もございます。

中には陸の労働者の労働分野にしか適用されないような予算もございますが、そういったものだけではなくて、船員にも使えるような内容もございます。そういった観点からも、そういう視点を持って見ていただくことも重要ではないかということで、昨年より参考資料としてご紹介させていただいているものでございます。

例えば、44ページをご覧ください。この中の項目に、多様な人材の活躍促進と職場環境改善に向けた取組等というところで、1つ柱として厚生労働省が掲げられておりますが、こちらは前回、前々回でご諮問いただきました船員の仕事と育児・介護の両立支援に関する措置などに密接に関係するような内容になっておりまして、特にその中の多様な働き方の実現に向けた環境整備、仕事と育児・介護の両立支援、ワーク・ライフ・バランスの促進としまして、1,326億円の予算要求がなされておりますけれども、この中に、先ほども紹介したような柔軟な働き方に関する制度に使えるような両立支援等助成金というふうな制度がございます。こちらは補助事業になるのですが、こちらは船員に使える予算というふうなところで確認してございますので、そういったところもご参考いただければと思っております。

繰り返しになりますけれども、私ども海事局だけで確保できる予算は限られてくるところがございますが、労働分野として横断的に見ていただきたいというふうな趣旨でご紹介させていただいているものでございます。

私からは以上でございます。

【加藤部会長】      ご説明ありがとうございました。

それでは、今、幾つか説明ございましたけれども、どこからでも結構でございます、ご

質問がございましたらお願い申し上げます。いかがでございましょうか。

遠藤委員、お願いいたします。

【遠藤臨時委員】 遠藤です。ありがとうございます。

経過も含めて詳しく説明いただき、誠に感謝するところではあるんですけども、通し番号で24ページですが、先ほど説明の中で、波方の「くるしま」の代船建造ということで話が合ったわけですけども、これは2年かけての代替船建造ということなんでしょうか。今年度の要求について全て総額で2年分、それとも分割といいますか、そういった要求の仕方なのか、どうなのか。その辺を教えていただければと思います。

以上です。

【加藤部会長】 いかがですか。お願いいたします。

【鈴木海技課課長補佐】 ご質問ありがとうございます。ご指摘いただいたとおり、今回の「くるしま」ですけども、先ほど説明したとおり、強潮流用のエンジンが必要ということで、その製造に15か月、全体の製造をかければ20か月かかるということで、ご指摘のとおり、2か年にかけて予算要求をしてつくっていくことになっております。具体的な額としては、今年度につきましては4.4億円を要求しております。

以上です。

【加藤部会長】 遠藤委員、いかがですか。

【遠藤臨時委員】 ありがとうございます。特に波方の「くるしま」ですけども、ここは瀬戸内で、それから来島海峡が近いということで、そういったエンジンが必要だというご説明ですから、例えば要求額より少ない予算額で決定されたからといって、船舶の性能が変わらないように、しっかりと予算のほうは確保していただきたいと思います。

それから、学校の機能向上のところ、同じページですけども、ご説明でこれまで学校の大規模修繕とか、昨年度の予算の中で既に執行状況もどういうふうに進捗しているのかというところも、ご説明、ご報告いただいたのですが、やはり校舎の教育環境といいますか、特に写真でもあるように、天井とか壁とかいったところに剥離があって、学生、生徒の安全面を考えると、非常に重要な案件ではないかと思っております。そういった学び舎での重大事故は避けなくてはいけないと思っておりますので、この辺については優先的にしっかりと、そういった重大事故につながらないように対応していただきたいと思います。

以上です。

【加藤部会長】 2点ございましたが、いかがですか。

【鈴木海技課課長補佐】      ありがとうございます。「くるしま」の要求につきましては、しっかりと想定していた仕様で製造ができるように努力してまいりたいと思っております。それから、学校施設の機能向上につきましては、我々としても、壁が上から落ちてきて生徒に当たると重大な事故につながってしまいますので、そういったことであつたり、あとは雨漏りで滑って転んでしまつたりとか、あと一つあるのが空調設備、夏はクーラーがないと授業とか、夜も眠れないという状況ありますので、安全面と学生の生活面、この辺についてはしっかりと要求していきたいと考えております。

以上です。

【加藤部会長】      遠藤委員、いかがですか。

【遠藤臨時委員】      ありがとうございます。こういった海技教育機構の中期的なあり方に関する検討会の中でも既に取りまとめられた部分もありますので、全力で予算確保を尽くしていくという力強い発言もありましたので、その辺はしっかり対応していただきたいと思います。

以上です。

【加藤部会長】      入札をきっちり見てくださいね。よろしくお願いします。

そのほかいかがでございましょうか。鈴木委員、お願いいたします。

【鈴木臨時委員】      ご指名ありがとうございます。鈴木です。

私のほうも24ページについてお願いしたいと思っております。今回、概算要求ということで、いろいろご説明をいただいて理解はできたつもりなのですが、実はこれはあくまでも概算要求で、この後、削除されたというか、そういうこともあり得ますので、できましたら今回、令和7年度は今、予算執行中なのですが、来年のこの時期に、せめて海技人材の育成については検証できる、いわゆる実績ですよ、実績の見込みといったことを教えていただければ。例えばJME T Sの運営交付金も基本的には渡し切りになると思うのですが、実際問題、それによってJME T Sさんが足りたのか、足りないのか、もし足りなかったらどういうやり方で行ったのか。それと、今言われているように教官の方々への賃金アップも必要だと言っている部分が、実際問題どうだったのかというような検証ができるような形、それで検証したから、こちらとしては悪いよとか言うのではなくて、次に向けてこうしたほうがいいのかという前向きに、この場で概算要求をする際に支援できるような意見を述べさせていただければ、そういった形で発展的に、せつかく人材育成について皆さんで協議しておりますので、その辺をお願いできればと思っております。

それともう1点、施設のほうの関係ですが、これもいろいろ、施設が古くなったということになると、やはりもうちょっと客観的に、全体の校舎等が、例えばこの辺は今年度中にやらなければいけないAランク、それから来年でもいいBランクとか、少しランクづけした客観的な話が必要かなと。ただ、その年によってこうですよと言われても全体が見えない中で、ちょっとどうなのか分からない。それで極端に言うと、古い部分ですので、例えばアスベストがどうなっているのか、PCBがどうなっているのかというような形も、若い子たちを守ってあげるということもあって、それは国交省の中でしっかり検証されているとは思いますが、私どもも安心して生徒さんたちに、「ここはいい学校だよ」というような推薦ができるような形にしたいと思っておりますので、この辺、もしできましたら、少しずつでも教えていただければと思っております。

私からは以上でございます。

【加藤部会長】 2点ございました。

【鈴木海技課課長補佐】 海技課の鈴木です。貴重なアドバイス、大変ありがとうございました。

2点アドバイスをいただきました。まず、1点目が計上ですね。運営費交付金の使い方、足りたのか、足りなかったのか、それから賃金の件であったり、そういったところにつきましては、来年度のこの場においては少し説明できるように、しっかりと準備して臨んでいきたいと思っております。

それから、2点目の施設のランクづけ、古いものを客観的に見るというところで、一応、要求する際には各学校ごとに、直さなければいけないもの、そろそろリプレースの期限が切れるもの、緊急にやらなければいけないものというのはしっかりとまとめておりますので、次回は、その辺をしっかりと説明の中に入れ込んだ上で説明したいと思っております。

どうも貴重なアドバイス、ありがとうございました。

【加藤部会長】 鈴木委員、いかがですか。

【鈴木臨時委員】 よろしく願いいたします。

【加藤部会長】 その辺り丁寧な議論をとということだと思いますし、よろしく願いいたします。

齋藤委員、お願いいたします。

【齋藤臨時委員】 19ページの独立行政法人海技教育機構の練習船の機能向上、学校の機能向上というところで、特に練習船の件、これの老朽化が非常に進んでいるというよ

うなご説明だったと思いますが、全体像を知りたいと思います。海技教育機構の所有している各船舶の船齢がどうなっているのか、リプレースの計画についてはどうなのかというようなところもございますし、ここに写真があつて、その下に耐用年数15年と書かれていながら、船齢が30年経過というのを見て、「あ、そうですか」と言うわけにはいかないんですよ。であれば予算を確保して、リプレースがなされないといけないものだと思いますので、というのも、これは学生の命を預かる大切な船なんです。耐用年数を大きく超えた船で子供たちが実習しているということについて、安全上いかがなものかと。国土交通省として、これをどうお考えなのか、30年を経過した本船の乗組員による維持管理がどれだけ大変かということもよく理解いただきたいと思います。

ということで、これについては先を見越して計画的に、予算を優先的に確保して取り組むべきものではないでしょうか。その辺りの考え方をお聞きしたいと思います。

【加藤部会長】 齋藤委員、24ですか。

【齋藤臨時委員】 通し番号は24です。

【加藤部会長】 私もこれまで予算に質問したことがあるのですが、練習船の現状と今までの経緯も含めて、説明をお願いいたします。

【鈴木海技課課長補佐】 ありがとうございます。校内練習船ですけれども、30年前に一括してリプレースしたという現状がありまして、現状で波方校を含めて、6隻以上が既に船齢30年を超えているということとなっております。これについては、私どもとしましても適切にリプレースをしていく必要があると考えておりまして、2年前に清水をやり、今年、波方をやり、その後、順番にリプレースしていく計画は立てております。いかんせん予算が限られている関係で、なかなか1年に2隻、3隻というのは難しいところではあるんですけれども、今後も適切にこれらを計画的にリプレースするべく計画を立てているところでございます。

それから、耐用年数15年のところ船齢30年を経過しているということで、我々としても、早急にやらなければいけないところです。幸い練習船は、学生、教官ともきれいに使っていただいておりますので、今すぐに支障が出るところではないんですけれども、このペーパーに書かせていただいたのは、耐用年数15年なのにもう30年を超えているんですというアピールも込めているところではありますので、この辺については我々としても速やかに、今後、計画的にやっていきたいと考えております。

以上です。

【加藤部会長】 齋藤委員、いかがですか。聞いておきますということですかね。

【齋藤臨時委員】 併せて、その進捗をまた定期的というか、適宜ご報告いただきたいと思います。それを共有して、次の予算に向けてどうするかというような議論が必要なのではないかと思いますので、よろしくお願いします。

【加藤部会長】 希望ということで、頑張ってください。

【鈴木海技課課長補佐】 分かりました。

【加藤部会長】 藏本委員、お願いします。

【藏本臨時委員】 内航総連の藏本です。本日の議題はこれだけということで、皆さんが発言されておられるので、私のほうも1つだけですけれども、やはり24ページ、海技教育機構に対する経費のところで、清水の海上技術短大は女子寮があると聞いております。波方は女子寮がないということで、女性の活用が世の中でうたわれながら、我々、内航総連としても、女子船員の確保・育成の事業に注力しているところでございます。清水の短大は結構、女子学生が全体の1割程度いるんではしたかね。その1割程度の学生の出身地を分析されたことはおありですか。特に東中心に学生が来ているということであれば、西側にそういう女子寮がないから女子が集まらないという可能性があるのか、ないのか、その辺も今後検討いただきたい。そういう意味で、もし西日本のほうでも女子の船員が発掘できるようであれば、女子寮を検討していただきたいと思います。

以上です。

【加藤部会長】 いかがですか。

【鈴木海技課課長補佐】 ご質問ありがとうございます。少し手元にデータがないので、清水は西日本が多いのか、東日本が多いのかというのはこの場では即答できないんですけれども、感触的には東日本のほうが多いのかなと感じているところです。

それから、女子学生への取組というのも、限られた予算の中で少しずつ実施しているところでございまして、先ほど説明させていただいたんですけれども、今年、「銀河丸」の大規模修繕をちょうど今やっているところでして、この中で女子学生向けの対応をかなりやっております。具体的には、今まで女子学生用は一人向けのシャワーブースしかなかったんですけれども、それを男子の区画を一部壊して、湯舟を作って、洗い場も作ってという形にもしました。それから、洗濯機も限られていたんですけれども、洗濯のスペースも広くしたり、あとは乾燥機が1台しかなかったのですが、男子と同じようにボイラーの廃熱を使って、1時間ぐらいで乾くような区画を女子用に作ったりということにしております。

それから、今年度の学校修繕の中であれば、例えば清水の女子トイレの和式を洋式にするとか、そういうところを少しずつ進めているところです。

ご指摘のとおり、波方の件ですけれども、今後何ができるか少し考えていきたいと考えております。

【加藤部会長】      マーケティングの件もお願いしますね。ご質問の件で、どういう学生が来ているのかとか、入学に関する調査はどこの中高でもやっておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。

【鈴木海技課課長補佐】      分かりました。

【加藤部会長】      そのほかいかがでしょうか。よろしゅうございますか。

質疑の時間をここで終わりにさせていただいて、本日の予定された議事は全て終了ということになります。そのほかになにかあればお願いいたします。いかがでございましょうか。

ございませんか。

なければ、事務局よりお願いいたします。よろしく申し上げます。

【岩下労働環境技術活用推進官】      次回の船員部会の開催日程につきましては、部会長にお諮りした上で、改めてご連絡させていただきます。

事務局からは以上でございます。

【加藤部会長】      それでは、以上をもちまして、交通政策審議会海事分科会第187回船員部会を閉会いたします。

本日はお忙しいところ、委員及び臨時委員の方々、会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。

— 了 —